

第19回 ジャパンオープンハンドボールトーナメント 戦評報告書

競技日	平成26年 8月11日	試合番号	A-1
種別・回戦	男子・準決勝	会場	河南総合体育館

ながさしやちゅう 長崎社中		とよたぼうしよくきゅうしゅうれつどいんぱるす トヨタ紡織九州レッドインパルス		得点チェック欄		
30	16	前半	12	20	前半	<input checked="" type="checkbox"/>
	14	後半	8		後半	<input checked="" type="checkbox"/>
		第1延長 前半			第1延長	<input type="checkbox"/>
		第1延長 後半			第2延長	<input type="checkbox"/>
		第2延長 前半			7mTC	<input type="checkbox"/>
		第2延長 後半			合計点	<input checked="" type="checkbox"/>
		7mTC			記録主任確認	<input type="checkbox"/>

戦評	戦評委員氏名	川口 勉
----	--------	------

長崎社中14番相川のロングシュートで先制したが、トヨタ紡織11番阪がポストシュートを3本決めリードする。11分、長崎社中8番竹田の速攻で同点に追いついたが、11番三宅が退場となり、その機にトヨタ紡織が2点リードした。中盤、交互に点を取り合い一進一退の攻防が続いた。18分過ぎ、トヨタ紡織4番村上が退場となり、その間、長崎社中8番竹田がサイドシュートを2本決め同点に追いついた。終盤、長崎社中が勢いに乗り速攻を連続して決めるなど4点リードをして前半を終了した。

後半トヨタ紡織は2・4ディフェンスに変えてきた。立ち上がり、長崎社中17番深江がポストシュートを決め、トヨタ紡織11番阪が退場となった。勢いのある長崎社中が、キーパー12番古田の好セーブからの速攻やサイドシュート等を決め、点差を広げていった。中盤、トヨタ紡織は0・6ディフェンスに戻し、4連続得点をあげる等、健闘したが得点を詰めることができなかった。30対20で長崎社中が勝利した。

送信担当記録委員	金丸 央
----------	------